

平成28年度 「大阪市中学校3年生統一テスト」における 木津中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市中学校3年生統一テスト」について、平成28年10月6日（木）に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

1 テストの目的

- （１）テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成29年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- （２）学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

2 テストの対象

- ・ 原則として、大阪市立中学校の第3学年
- ・ 木津中学校では、第3学年47名

3 テストの内容

- ・ 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

平成28年度「大阪市中中学校3年生統一テスト」検証シート

実施日 平成28年10月6日(木)

学校名	木津中学校
-----	-------

生徒数(人)	47
--------	----

平均正答率(点)

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	60.0	47.0	45.8	44.2	60.8
大阪市	65.4	54.4	56.0	55.0	61.2

結果の概要

英語は教科全体・基礎・活用ともに大阪市平均とほぼ同じ正答率である。数学・理科は教科全体・基礎・活用ともに大阪市平均を10点以上下回る結果であった。解答形式では、選択に比べて記述・短答の正答率がかなり低い。基礎学力の定着と向上に取り組んでいるが、基本的学習習慣が身についておらず、活用力が不十分であると考えられる。

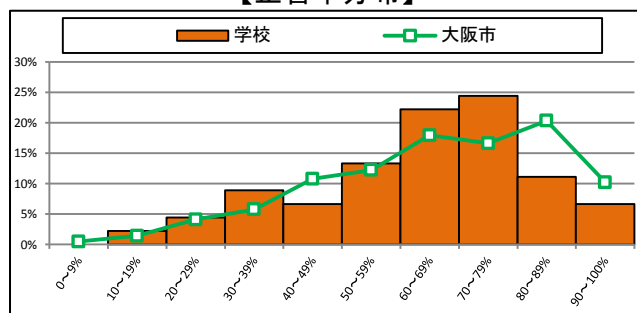
成果と今後取り組むべき課題

国語については「話すこと・聞くこと」「読むこと」に比べ「書くこと」の正答率が低く、書く力や表現する力の育成が必要である。社会・理科は正答率30%未満の生徒の割合が大阪市平均より多い。また、数学は正答率80%以上の生徒が大阪市平均よりかなり少ない。これらの層の引き上げのために、指導方法の工夫・改善が課題である。

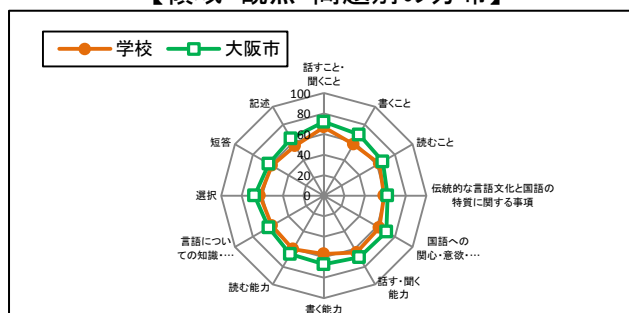
【各教科の正答率分布と領域・観点・問題形式別平均正答率の分布】

【国語】

【正答率分布】

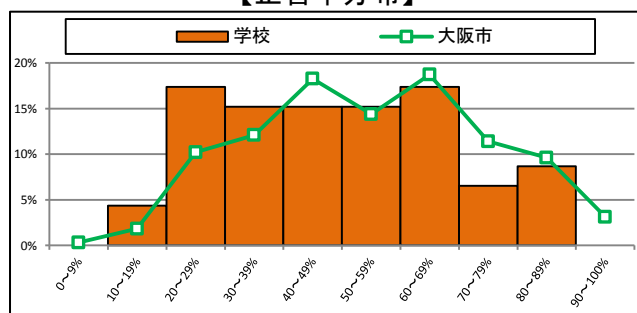


【領域・観点・問題別の分布】



【社会】

【正答率分布】

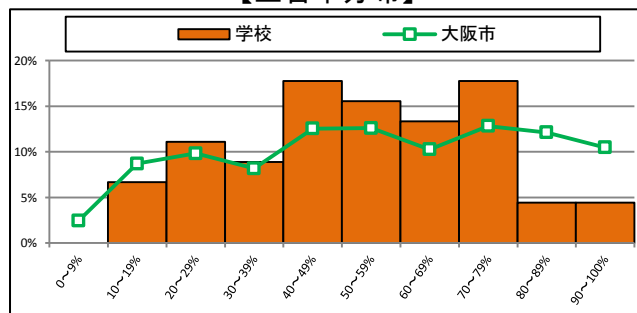


【領域・観点・問題別の分布】

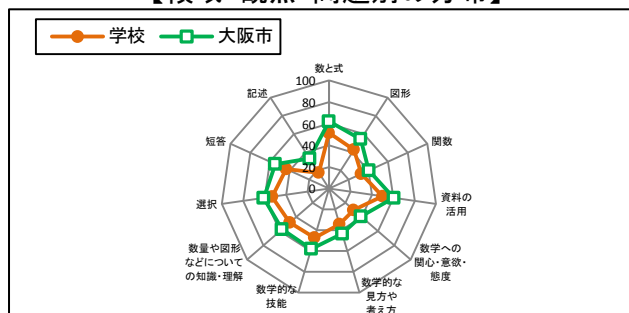


【数学】

【正答率分布】

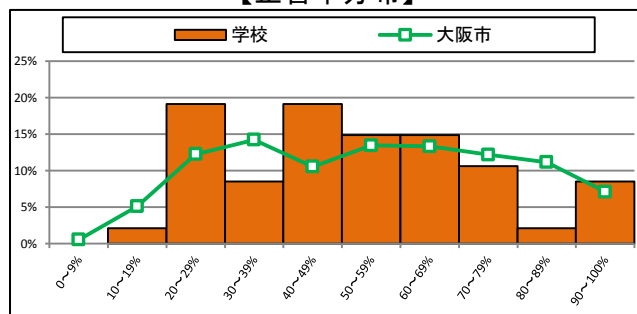


【領域・観点・問題別の分布】

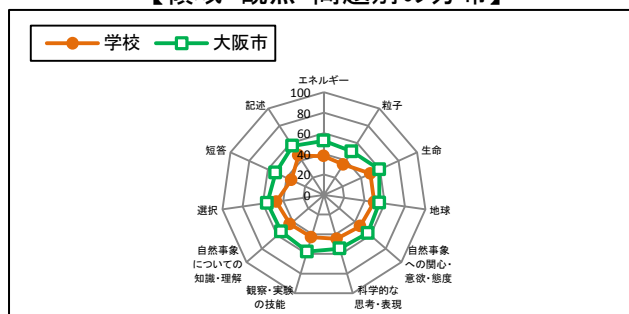


【理科】

【正答率分布】

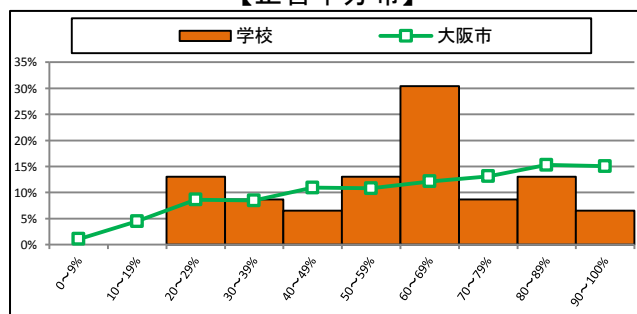


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

